

徵臭舊稿（其二）我日本ノつゝじ

にまがふなる 花見女の手三味線 其の脇ひを他所にして 酒を片手の安兵衛に 切つても切れぬ高田の馬  
 場も 指して行くゝ道草むしり 醉つて倒れる源藏に 其の名もゆかりの赤羽や 集る同勢六十四名 霞  
 に續く川沿ひの つゝみ切れない喜に かげろふもえて水清き 彼方に見ゆる荒川の 變れば變る人達や  
 藪を求めて草探し 鳥の名間ひし業平の びなんかづらやまさきのかづら 義理に絡るかづら共 隠に苦勞  
 のひかげのすみれ やまととゝぎすの吐いた血か 垣を彩る敷山茶 うぐひすかぐらのたよたよと 傷づけ  
 まいぞや猫の目草 浮世の苦勞を外にして 二人づれる二輪草 其れを見とりつ老を待つ うばゆりの花  
 の末長き 百歳千歳を祝ひつゝ 舞ふか舞鶴天南星 さても志村に打出れば 金は要らぬよ 黄金の 色敷き  
 つめし野漆の 間に交りてひめあまな あまなの色の清きにも さてもにつくきたかあざみ 白花菫の色あ  
 せて流れの儘のうきがやや 其の名もゆかりの墨堤の 墨染の衣に世を捨てし 土筆の圓き頭あり 益齋  
 芹や野唐松 中にも名高き櫻草 さても其の色の紅は 香も高き白菖湯に あかみ帶びつる乙女子の 頬の  
 色にもまがひつべく 蓬の鬚の荒男も 摘みとりまじき風情なり

## ○徵臭舊稿（其二）我日本ノつゝじ

（明治四十四年五月十日東京、日の出公論）第一卷第一號

牧野富太郎

つまらんモノデハアルガ是レ迄イロ／＼ノ雑誌ナドニ出シタ舊稿ヲ時々本誌ニ再録スル事ニシタ其レハ何  
 ノデモ私ノヲ成ルベク此雑誌ヘ纏メテ置キタイ主意カラデアル、舊イやつダシ且ツ中ニハ勿々間ニ合セニ  
 書キナグツタモノモアルカラ歎莽誤謬モ無論アルニ極ツテ居ル又後ニハ新發見モアツテ今ハ既ニ舊説トナ  
 ッテ居ルモノモ多イ讀ンデ下サル方ハ其時代ノ氣ニナツテ見テ下セ一（假名ハ皆片假名ニ直シタ  
 我國ニハツゝじ類ノ品種ガ多ク山野ニハ勿論植込ノアル庭ニハ大抵ツゝじ類ノ栽エテナイ處ハ無イ位デアルガ

古來ヨリつゝじ類ノ花ヲ賞スル所カラ園藝上ニ多クノ珍種ヲ出シ其花ノ色ト容トニ千態萬狀ヲ呈シテ居ル。つゝじノ種類ハ植物學上デハ種ニ分チ更ニ進ンデ園藝上デハ品種ニ別ツテ居ル通常植物學者ハ各自ノ種徵ニ就テ思ヲ凝シ園藝學者ハ主トシテ其種中ノ變リモノニ就テ品臨スルノデアル。

つゝじハ漢名ニ躡躅ノ字ヲ充テ、アルガ植物學上デハ通常ロードデンドロン屬即チしゃくなげ（石南）屬ニ入レテアルガ園藝ノ方デハ一般ニアザレアノ名ヲ用キテ居ル此アザレアノ名ハ乾燥ノ意ナル「アザレオス」ヨリ出タモノデつゝじノ類ハ乾燥シテ水分ノ少ナイ土地ニ生育スルカラ此屬名トシテ此アザレアノ名ヲ命名者ノリシネ氏ガ選ンダモノデアル始メテ其名ノ生レタリソネ氏ノ時代（今ヨリ凡百五十八年前頃）ニハ此つゝじ屬トしゃくなげ屬ヲ兩立サセつゝじ屬ヘハ花中ニ雄蕊ガ五ツアツテ葉ノ冬ニ落チルモノガ編入セラレしやくなげ屬ハ雄蕊ガ十アツテ冬ヲ凌イデモ尙ホ葉ガ落チナイモノガ編入セラレアツタガ其後新シイ種類ガ發見セラル、ニ及ンデつゝじ屬ヘ入ルベキ品種ノ中ニ十雄蕊ノ花アルモノモ又葉モ冬尙ホ綠ナルモノモ出テ漸次しやくなげ屬ト區別ガ付カナクナツテ來タ其處デ植物學者ハつゝじ屬 Azalea トしやくなげ屬 Rhododendron ト合併シテ今デハ全體ヲ Rhododendron ノ屬名デ綜ベルコトニナツテ居ルガ園藝ノ方面デハ今尙ホつゝじ類ノ舊名アザレアデ通シテ居ル。

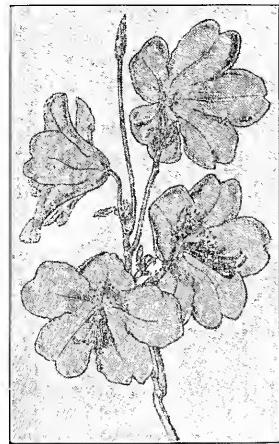
しやくなげ類トつゝじ類トハ一見シテソノ區別ガツクガコレヲ植物學上ヨリ看レバ類似ノ點、寧ロ同揆ノ點ガ多イ葉ノ大小、厚薄并ニ殘落ノ點ハ屬中品種ノ異ナルニ從テ亦相同ジデナイガ其花ノ構造ハしやくなげ類モつゝじ類モ共ニ同一デアル即チ其花冠ハ多少偏形デ側向シ其上方ノ裂片ハ其左右ノ裂片ヲ併セテ花筒ニツゝキ特別ノ斑點アルハ昆蟲ノ飛來スルトキノ目印デアル又雄蕊ノ薬ハ上端ニ特別ニ二ツノ孔ガアツテ之レカラ花粉ガ出ヅルノデアルガ此花粉ハ蜘蛛ノ絲ノ如キモノデ互ニ相聯絡シ少許ノ花粉ガ昆蟲ノ肢體ニ著ケバ殘リノ花粉ハ此絲ノ聯絡デ次第ニ出テ來ル様ニナツテ居ル。

つゝじやしやくなげノ花ヲ觀ル人々ハ誰モ此等ノ花ニ斯ノ如キ特狀ノアルコトニ氣付カヌデアラウガ植物學者ハ此等ノ花ニ對スレバ其花ノ美ヲ賞スル上ニ更ニ此ノ如キ妙趣ヲモ併セテ味フノデアル  
 つゝじニしやくなげ類ヲ編入シテ我邦デ植物學者ガ認メテ區別シタつゝじノ類ニ左ノ品種ガアル(園藝上ノ種類ヲ加フレバ更ニ幾十倍ノ異品ガ得ラレルガ)  
 つゝじノ名ヲ冒シテ居ルモノ假令バいはつゝじ、うらしまつゝじ、どうだんつゝじ、あぶらつゝじ、ほつゝじ、  
 はこつゝじ、いそつゝじ(同名)、えふらくつゝじ、こえふらくつゝじ、つりがねつゝじ并ニはこねこめつゝじ  
 等ハつゝじノ名ヲ伴ヘドモつゝじノ屬トハ別ノ品種デアル、○つくししゃくなげ○みつばつゝじ○かはつゝじ  
 ▲しやくなげ○とさのみつばつゝじ○あかやしほ○ほそばししゃくなげ○こばのみつばつゝじ○ごえふつゝじ○  
 しろしやくなげ○れんげつゝじ○りうきうつゝじ○きばなししゃくなげ○くろふねつゝじ▲むらさきりうきう○  
 セいしくわ○むらさきやしほつゝじ○たうつゝじ○ひかけつゝじ○もちつゝじ○うんぜんつゝじ○さくらつゝ  
 じ▲さいぎやう▲しろばなうんせんつゝじ○おほばつゝじ▲せいがいつゝじ○こめつゝじ○ほんつゝじ○ふぢ  
 つゝじ▲おほこめつゝじ○やまつゝじ▲さつき○えぞむらさきつゝじ▲まるばさつき○げんかいつゝじ▲きり  
 しまつゝじ○ばいくわつゝじ▲むらさききりしま○えぞつゝじ▲みやまきりしま▲みそめきりしま▲むらさき  
 やまつゝじ等デアル(▲符ノモノハ變種)  
 しゃくなげヲ分テバ南北トスルコトガ出來ル南品トハ九州カラ四國ヘカケテ山中ニ生ズルモノデ殊ニ大隅ノ屋  
 久島ノ山中ニハ大樹ガ多イ普通ニハ世人ガ之ヲしやくなげト呼ンデ居ルガ吾人ハ之ヲつくししゃくなげ或ハお  
 ほしやくなげ【原文ニおほしましゃくなげトナ】ト稱シテ居ル此品ハ花冠ガ七裂片ニ分レテ居ルカラ直グ區別ガツク、  
 コレハ我邦しやくなげ類中ノ王デ花體大キク花毬モ亦從ツテ大キク花色モ鮮カデ花期ニハ其優美ノ姿ヲ山谷  
 ノ間ニ展ベルノデアル、しやくなげガ始メテ泰西ノ學者ノ眼ニ入ツタノハ即チ此品デアツテシーボルト氏ノ書

ニハ其圖說ガ出テ居ル、吾々ノ單ニシヤクナゲト呼ンデ居ルモノハ右ノつくしシヤクナゲノ一變種デアル【原誤訂植ガアル今シタ】コレハ我邦ノ中部ヨリ北部ニ亘ツテ山中ニ生ズルモノデアル伊豆ノ天城山、野州ノ日光山中ナドニ見ラレル其花冠ガ五裂シテ居ル點ガ前者ノつくしシヤクナゲト異ル所デ其他ハ同一種デアル

## あかやしほ

## いづれふろくじ



あかやしほ

○もちつゝじハ園藝品トナツテ居ルガ此種ハ關西地方ノ山地デハ普通自生シテ居ル其新葉ヤ芽鱗ヤ花梗並ニ萼片ガ粘着スルカラもちつゝじト呼バレテ居ル▲せいかいつゝじハ本種ノ園藝的變種デアルガ泰西ノ學者ハコレヲ一種特立ノ品デアルト誤解シテ居ル○かはつゝじハ四國中國邊ニハ川邊ニ自生シテ居ツテ土佐ノ仁淀川縁ニテハ之ヲいそつゝじト呼ンデ居ル庭園ニ栽エラレテわかさぎト稱セラルヽノハ即チ本種デアル

○あかやしほハ我國ノ特產デ中部諸州ノ深山中ニ生エルガ又四國九州ノ山中ニモ之ヲ見ルノデアル今東京デ冬ノ内ヨリ枝ヲ水ニ挿シテ置ケバ春早ク淡紅ノ花ヲ開キ宛モ造花ノ觀ガアルモノガ即チ

此あかやしほデ上州邊カラ送ッテ來ルノデアル野州日光ノ山中ニモ多クアツテ花時ニハ甚ダ見事デアル此あかやしほニ對シテしろやしほト呼ブモノガアルガコレハ別種デ花色白クあかやしほヨリ少シ後レテ開花シ一名ごえふつゝじト稱シテ居ル此種トあかやしほトハ其葉ガ五枚ヅ、車輪ノ様ニ枝端ニ叢生シテ居ル

○うんぜんつゝじ、今日うんぜんつゝじト呼ンデ居ル細葉小花ノつゝじハ決シテ温泉岳ノ産デハナイ書物ニモ肥前ノ温泉岳ニ產スル様ニ書イテアリ又大槻氏ノ言海ニモ『初メ肥前ノ温泉岳ニ出ヅ』ト記シ又世人モ其様ニ思フテ居ルガ其レハ大ナル誤リデアル温泉岳ノつゝじハ細葉小花型ノつゝじデハアルガ今世ニ言フ所ノうんぜんつゝじデハ決シテ無イ此温泉岳ノつゝじハみやまさりしまト稱スル別種ノつゝじデ今ノうんぜんつゝじトハ些ノユカリモ無イ種類デアル

▲さつきハやまつゝじノ變種デアツテ普通ノ庭園ニモ見ラレル其葉ニ長イモノト圓イモノトガアツテ自分ハ甲ヲ單ニさつきト稱ヘ乙ヲまるばさつきト新稱シテ居ル共ニ自生モアルガ此自生ノ事實ヲ植物學界デ明ラカニシタノハ近年ノ事デ自分ガ始メテ其事實ヲ發表シタノデアル即チさつきノ自生地ハ紀州并ニ大和ノ南部又大隅ノ屋久島デアツテまるばさつきノ自生地ハ肥前ノ福江島デアル

▲きりしまつゝじハ霧島山ノ產デハナイ日向ノ霧島山特ニ同山中ノ韓國岳ノ山嶺近クハ細葉小花型ノつゝじガ自生シテ居ルガコレハナク矢張前述ノ肥前ノ温泉岳ノ細葉小花型ノつゝじト同一種デ即チみやまさりしま（自分ノ新稱）デアル此種ハ尙肥後ノ阿蘇山ニモ自生シテ居クテ九州ノ高山つゝじハ是レデアル此みやまさりしまハやまつゝじニ最モ近キ品デ山ノ中腹邊以下ニアツテ其葉ノ少シ薄ク大キクナツテ居ルモノハやまつゝじト殆ンド區別ガシ難イ程類似シテ居ル無論やまつゝじトハ別種デナク同種中ノ兄弟同士デアル霧島山ハ斯クきりしまつゝじノ故郷地デハナク同山ノモノハ全ク別ノ種類デアルニ拘ハラズ丁度前述ノうんぜんつゝじヲ温泉岳ノ原產デアルト誤解シテ居ルノト同ジ様ニ矢張さりしまつゝじヲ霧島山ノ原產ノ様ニ認メテ

居ルハ甚ダ不詮索ノ至リダ今日きりしまつゝじノ原產地ハ不明デアルガ然シ九州ノ西部地方ガ其故郷デアルカ  
ト思フ而シテリンードレーハ氏ガ始メテきりしまつゝじヲ圖説シタ其原材料ハ支那カラ英國ヘ渡ツタモノデアツタ  
ガ支那ガ其原產地デアルカト速了スルハ謬デアルリンードレーハ氏ガ遠キ英國デ圖説シタ材料ノ原種ハ蓋シ我ガ五  
島方面ヨリ出タノデアラウ

福江島ハつゝじノ聞エタ產地デアル此等ノ島ヲ詮索シタナラバきりしまつゝじノ或ハ原產地點ヲ得ルコトガ出  
來ヤウカト思フ自分ハ去ル明治四十一年九月同島ヘ植物ノ採集ニ行ッタ事ガアルガ同島西南角ノ大瀬崎ノ無線  
電信局ノ邊リノ山地デきりしまつゝじラシイモノヲ見出シタ當時秋デ花ハ無カツタガ其葉ノ末端ガ鈍圓デ葉形  
モ小ク又葉面ニ光澤ガアルナドカラ見テモきりしまつゝじト思ハレルノデ始テきりしまつゝじノ原產地ヲ發見  
シタト思ツテ大ニ喜ンダガ次年ニ其花ノ標品ヲ見ルニ及ンデ大ニ失望シタ、ソレハきりしまつゝじデハナクま  
るばざつきデアツタカラデアル然シきりしまつゝじデハ失敗シタガ我日本デまるばざつきノ自生地ヲ得タノハ  
有益ナ新事實デアツタ、ソレハ此まるばざつきハ從來我邦ニハナイト泰西ノ學者ガ思フテ居タカラデアル  
○げんかいつゝじハ朝鮮デハ普通ナつゝじデ葉ニ先ダチテ通常紫色ノ花ヲ着ケ恰モみつばつゝじノ如クデアル  
而シテ同品ハ數年前タゞ僅ニ對馬ノ山中ニ生ズルコトガ明ラカニナツタ

▲みそめきりしまト云フ園藝品モアル泰西ノ學者ハコレヲ一種特立ノ品ト思フテ居ルケレドモ、コレバやまつ  
ゝじカラ變ツテ來タ園藝品デアル此品ニ就テ面白イコトハ其花冠ガ退化シテ小形トナツテ居ルニ拘ハラズ其雄  
蕊ハ依然トシテ舊態ヲ保持シテ居ルコトデアル、ソレ故其雄蕊ガ高ク花冠ノ上ニ抽キ出テ頗ル不釣合ナ姿勢ヲ  
呈シテ居ル

右ノ外つゝじ類ニ就テハ未ダ書クコトガ多イケレドモ此レ位デ筆ヲ擋カフ